

# 千葉演習林自動撮影カメラ調査成果報告 (2016 年 4 月～2021 年 3 月)

三次充和・里見重成

Monitoring report of the vertebrates using camera traps in the University of  
Tokyo Chiba Forest (April, 2016–March, 2021)

Mitsukazu MITSUGI, Shigenari SATOMI

## I. 調査地

調査は房総半島の東南部、房総丘陵の東側に位置する千葉演習林（面積 2,226.05ha）<sup>1)</sup>で行った。観測地点は桧尾 G2, 平塚 F2, 小坪沢 K2 の 3 地点に設定した。千葉演習林の位置や地況、植生などの詳細については、ウェブサイト（<https://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chiba/>）を参照された

い。

## II. 調査概要と使用機器

調査は 2016 年 4 月から 2021 年 3 月までの 5 年間行った。調査地ごとの稼働期間、撮影数内訳、使用した機器および設定条件、位置情報を附表-1 に示す。同一個体の連続撮影を防ぐため、60 秒間は作動しないよう設定した。しかし、一部の撮影調査では撮影間隔が 10 秒に設定されていたため、その場合は、撮影間隔が 60 秒になるよう補正して撮影数を集計した。附表-1 には補正後の撮影枚数と撮影間隔のほかに、補正前の撮影枚数と撮影間隔を括弧書きで下段に記載した。なお、無効撮影画像と鳥獣を除く有効撮影画像には補正を行わず、カメラ設定での撮影枚数を記載した。なお、鳥類も可能な限り同定を行った。

## III. 結果

### (1) 撮影数と確認種

撮影された総数は 8,634 枚で、そのうち有効撮影は 5,218 枚であった。鳥類を含む脊椎動物が確認できたものは 4,471 枚であった。その内訳は、ネズミ類を除く哺乳類 4 目 8 科 11 属 11 種 3,550 枚、ネズミ類 43 枚、判別不能哺乳類 805 枚、カラス類を除く鳥類 3 目 3 科 3 属 3 種 42 枚、カラス類 1 枚、判別不能鳥類 38 枚であった。爬虫類はトカゲ類と思われるものが 2 枚撮影され

たが、種の同定には至らなかった。両生類は撮影されなかった。哺乳類の内訳はニホンザル 425 枚、イヌ 8 枚、テン 4 枚、イタチ 1 枚、アナグマ 39 枚、ハクビシン 37 枚、イエネコ 3 枚、イノシシ 197 枚、ニホンジカ 442 枚、キョン 2,384 枚、ニホンリス 10 枚であった。このうち、キョンは環境省外来生物法の特定外来生物に指定されている。鳥類の内訳はキジバト 36 枚、ミゾゴイ 5 枚、ヤマドリ 1 枚であった。

#### (2) 鳥獣撮影リスト一覧

千葉演習林で 2016 年 4 月から 2021 年 3 月までに撮影された鳥獣撮影のリストを附表-2 に示す。なお、一枚の画像に複数種が映っている場合もあるため、附表-1 の鳥獣撮影数と附表-2 の延べ鳥獣撮影数の合計値は一致しない。

### IV. 謝辞

本調査を進めるにあたり、多数の教職員のご理解とご協力をいただいた。ここに厚く御礼申し上げます。

### 引用文献

- 1) 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 (2012) 千葉演習林第 13 期教育研究計画 (2011 (平成 23) 年度～2020 (平成 32) 年度). 演習林 51 : 27-66.

「附表－1」および「附表－2」については、東京大学学術機関リポジトリ（UTokyo Repository）に掲載しています。

URI: <https://doi.org/10.15083/0002002916>